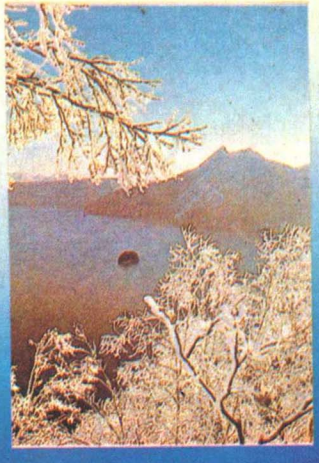
# 日本諺語成語辭典



外語學習社印行

# 日本諺語成語辭典

外語學習社印行

出版：外　語　學　習　社
香港北角渣華街19號A 地下
印刷：美景印刷製版公司
香港英皇道193-203號
英皇中心大厦二樓 B

版權所有・請勿翻印

# 說明

本書是把日本文學博士「石井庄司」所編撰之「新編諺語格言辭典」，採對譯方式譯成中文。其特色如下：

㈠篇篇中日對照、漢字皆附假名，可不必翻查字典，而能朗朗終篇。

㈡每則成語、諺語，原則上依下述項目排列：說明、注釋、例句、類似諺語、相反諺語。並附有生動的插圖。

㈢爲求典雅醒目，每則成語、諺語，一律採用隸書字排印。

㈣每則日本成語、諺語，儘可能找出我國同義的成語、諺語與之對譯，求之不可得時，才照字面意思翻譯。

㈤正文依五十音圖排列，檢索成語、諺語，與日華字典的查法相同。書末再附索引，俾便於翻檢。

㈥各諺語、成語源自我國者，則列出書名及原文，以利讀者進一步研究。

# さくいん


［あ］　（ページ）

合縁奇縁……1
あいさつは時の氏神……1
あいた口がふさがらない……1
あいた口に牡丹餅……1
相手変われど主変わらず……1
相手のないけんかはできない……1
会うは別れのはじめ……1
仰いで唾はく（中II(7)(7)）……2
仰いで天に愧じず俯して地に怍じず（小II(1)(2)(1)）……2
青菜に塩……2
青は藍より出でて藍よりも青し（小III(1)(3)(1)）……2
赤子の手をねじる……3
空梅は音が高い（小III(2)(2)(2)）……3
秋茄子は嫁に食わすな……3
秋の日はつるべ落とし……3
悪事千里を走る（小II(1)(2)(1)）……4
悪事身にかえる（小II(1)(2)(1)）……4
悪銭身につかず（小II(1)(2)(1)）……4
悪人の勝利はただ一時のみ（小II(1)(2)(1)）……4
揚げ足をとる（小II(7)(7)）……5
開けて惜しき玉手箱……5
朝商いは福を呼ぶ……5
朝あけは雨夕あけは日和……5
浅い川も深くわたれ（中II(9)(7)）……6
朝起きは三文の徳（小II(3)(1)(9)）……6
浅瀬に仇波……6
麻につるる蓬……6
朝寝坊の宵っぱり……6
朝に紅顔あって夕に白骨となる……7
朝に道を聞かば夕に死すとも可なり（小II(1)(2)(1)）……7
足もとから鳥が立つ……7
明日ありと思う心の仇桜……7
飛鳥川の淵瀬……8
明日の百より今日の五十……8
当たって砕けよ（小II(1)(2)(1)）……8




此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

頭隠して尻隠さず……9
頭の上の蠅も追えぬ……9
当たらずといえども遠からず……9
当たるも八卦当たらぬも八卦……9
あちら立てればこちらが立たず……10
暑さ寒さも彼岸まで……10
羹にこりて膾を吹く……10
後足で砂をかける……11
後の雁が先になる……11
あとの祭……11
あとは野となれ山となれ……11
あの声でとかげ食らかや時鳥……12
あばたもえくぼ……12
危い橋を渡る……12
虻蜂とらず……12
油を売る……12
雨だれ石を穿つ（小Ⅱ(5)12）……13
あまのじゃく……13
あまり物に福あり……13
阿弥陀の光も銭次第……13
網呑舟の魚をもらす……14
雨降って地かたまる……14
過ちて改むるに憚ることなかれ（小Ⅱ(8)13）……14
嵐の前の静けさ……14
蟻の穴から堤がくずれる……15
案ずるより生むがやすし……15

〔い〕

言うは易く行なうは難し……15
家貧しくして孝子あらわる……15
生き馬の目を抜く……15
いざ鎌倉……16
石が流れて木の葉が沈む……16
石に漱ぎ流れに枕す……16
石の上にも三年（小Ⅱ中Ⅰ(5)12）……17
石橋をたたいて渡る（小Ⅱ(8)13）……17
医者の不養生……17
衣食足りて礼節を知る（小Ⅱ中Ⅰ(2)13）……18
以心伝心……18
急がばまわれ……18
痛くない腹をさぐられる……18

板子の一枚下は地獄……19
一事が万事……19
一日千秋の思い……19
一日の長（小II(717)中II(717)）……19
一樹の蔭一河の流れ……19
一年の計は元旦にあり……20
一富士二鷹三茄子……20
一網打尽……21
一文惜しみの百失い……21
一葉落ちて天下の秋を知る……21
一陽来復……21
一を聞いて十を知る……21
一挙両得……21
一簣を以て江河を障う……22
一犬虚を吠ゆれば万犬実を伝う……22
一瀉千里……22
一将功成りて万骨枯る（中II(7)）……22
一炊の夢……22
一寸の光陰軽んずべからず（小II(6)）……22
一寸先は闇……23
一寸の虫にも五分の魂（小II(717)中II(717)）……23
一石二鳥……23
一銭に笑うものは一銭に泣く（中I(415)）……24
一斑を見て全豹を知る……24
一夫耕さざれば天下その飢えを受く（小IV(30)）……24
鷸蚌の争い……25
犬は三日飼えば三年の恩を忘れぬ……25
犬も歩けば棒にあたる（小III(1302)中II(1302)）……25
命あっての物種……25
命長ければ恥多し……26
井の中の蛙大海を知らず……26
韋編三たび絶つ（小II(1028)中I(5)）……26
今鳴いた烏がもう笑う……27
入るを量りて出ずるを為す（小II(415)中I(415)）……27
色の白いは七難隠す……27
鰯の頭も信心から……27
言わぬが花（小I(107)中II(8)）……27

［う］

有為転変は世の習い……28
魚心あれば水心あり……28

有卦に入る……28
烏合の衆……28
雨後のたけのこ……29
氏なくして玉の輿……29
牛に対して琴を弾ず……29
牛に引かれて善光寺参り……29
氏より育ち（小II(5)(2)）……30
後髪をひかれる……30
嘘から出た実……30
独木の大木……30
鰻登り……30
鵜のまねをする烏は水におぼれる……30
鵜の目鷹の目……31
馬が合う……31
馬の耳に念仏……31
生みの親より育ての親……31
海のことは漁師に問え……32
海の幸山の幸……32
梅干と友達は古いほどよい……32
怨み骨髄に徹す……32
売りことばに買いことば……32
瓜のつるに茄子はならぬ……33
瓜二つ……33
烏鷺の争い……33
噂をすれば影がさす……33

〔え〕

易者の身の上知らず……33
会者定離……34
得手に帆をあげる……34
江戸っ子は宵越しの銭は使わぬ（小I(4)(5)）……34
江戸の仇を長崎で討つ……34
えびで鯛を釣る……35
燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや（小I(6)(2)）……35
遠水近火を救わず……35
縁なき衆生は度し難し……35
縁の下の力持ち……35

〔お〕

老いては麒麟も駑馬に劣る……36
老いては子に従え……36
負うた子に教えられて浅瀬をわたる……37

大男総身に知恵がまわりかね……37
大風が吹けば桶屋が喜ぶ……37
大船に乗った気持……38
おかへ上った河童……38
岡目八目……39
奥歯に物がはさまったよう……39
驕れる者久しからず……39
お里が知れる……39
おそかりし由良之介……39
恐れ入谷の鬼子母神……40
小田原評定（小I(216)3）……40
落つれば同じ谷川の水……40
男は度胸女は愛敬……40
同じ穴のむじな……41
同じ釜の飯を食う……41
鬼がでるか蛇がでるか……41
鬼に金棒……41
鬼のいない間の洗濯……42
鬼の霍乱……42
鬼の首をとったよう……42
鬼の目にも涙……42
尾に鰭をつける……43
鬼も十八番茶も出花……43
己の欲する所を人に施せ（小IV(152)4）……43
己を以て人を量る……43
帯に短したすきに長し……43
お百度をふむ……44
おへそが茶をわかす……44
おぼれる者はわらをもつかむ……44
お前百までわしゃ九十九まで（小IV(163)3）……44
思い立つ日が吉日（小II(52)2）……45
思い半ばに過ぐ……45
思うこといわねば腹ふくる（小II(61)8）……45
思う念力岩をも通す（小II(5)2）……46
重荷を持つとも大食するな……46
親子は一世……46
親の意見と茄子の花は……46
親の心子知らず（小IV(163)3）……47
親のすねかじり（小I(61)8）……47
親の七光……47

親の欲目……47
親はなくても子は育つ……48
親ほど親思え……48
泳ぎ上手は川で死ぬ（小II 中II(8)13）……48
折れるより曲がれ（小I 中II(8)14）……48
終りよきものはすべてよし（中I(5)12）……48
尾を振る犬は打たれぬ……49
恩が仇……49
温古知新（小IV 中III(2)15/16）……49
温良恭倹譲（中II(8)14）……49

〔か〕

飼犬に手をかまれる……50
貝殻で海をはかる……50
鎧袖一触……50
楷書かねば手書きでない……50
快刀乱麻を断つ……50
隗より始めよ（小II(5)(8)(9)）……50
偕老同穴（小IV 中III(16)29）……51
蛙の子は蛙（中II(6)(7)(7)8）……51
蛙の面に水……51
顔に泥をぬる（小II 中II(7)17）……51
輝くもの必ずしも金ならず……52
蝸牛角上の争い（小IV 中III(3)6/8）……52
学問に近道なし（中II(2)10）……52
かごで水くむ……53
かごに乗る人かつぐ人（小I 中III(8)25）……53
傘屋の小僧……53
臥薪嘗胆（小II 中I(5)12）……53
佳人薄命……54
稼ぐに追いつく貧乏なし（小IV 中I(5)10）……54
風の便り……54
風の前の塵……54
かぜは万病のもと（小II 中I(1)1）……54
堅い木は折れる（小II 中II(8)13）……54
形は生めども心は生まぬ（小II 中I(6)8）……54
肩を入れる……55
火中の栗を拾う……55
勝ってかぶとの緒をしめよ（小II 中II(8)14）……55
河童の川流れ（小II 中II(8)13）……55
勝てば官軍負ければ賊軍……56

我田引水……56
瓜田に履を入れず（中II(8)14）……56
門松は冥途の旅の一里塚……56
鼎の軽重を問う……57
蟹は甲らに似せて穴を掘る（中II(6)8）……57
金請けはするとも人請けはするな……57
金に糸目をつけない（中I(4)7.5）……57
金は天下の廻りもの（中I(1)15）……58
金持の貧乏人貧乏人の金持……58
蚊のすねにやすりをかける……58
禍福は糾える縄の如し……58
冑を脱ぐ（中I(5)12）……58
株を守りて兎を待つ（中II(6)8）……59
壁に耳あり障子に目あり……59
果報は寝て待て……59
神は自ら助くる者を助く（中II(6)8）……60
亀の甲より年の劫……60
鴨が葱をしょってくる……60
烏の行水……60
枯木も山のにぎわい……60
彼を知り己を知れば百戦殆からず……61
夏炉冬扇……61
可愛いい子には旅をさせよ（中II(6)8）……61
川向こうの火事……62
瓦も磨けば玉となる（中I(5)12）……62
皮を切らせて肉を切れ……62
観学院の雀は蒙求をさえずる……62
諫言耳に逆らう……63
眼光紙背に徹す……63
閑古鳥が鳴く……63
かんしゃく持ちの事破り（中I(5)12）……63
勘定あって銭足らず……63
韓信の股くぐり……63
勧善懲悪……64
寛大である前に公正であれ（中III(1)9.27）……64
肝胆相照らす……64
邯鄲の夢……64
旱天の慈雨……65
艱難汝を玉にす（中I(5)12）……65
堪忍袋の緒が切れる……65



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

間髪を入れず……65
汗馬の労……65
看板にいつわりなし（小I(2)(3)(4)中II(2)(3)）……66
管鮑の交わり（小II(7)(7)中II(7)(7)）……66
歓楽極まりて哀情多し……66
棺をおおいて事定まる……66

［き］

聞いて極楽見て地獄……67
気が利きすぎて間が抜ける……67
聞き上手の話し下手……67
聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥（小I(2)(2)(4)中II(2)(2)(4)）……67
聞くは法楽……68
騎虎の勢い……68
犬子も『かずば打たれまい……68
机上の空論（小I(2)(2)(2)中II(2)(2)(2)）……68
傷口に塩……68
機先を制す……69
驥足を展ばす……69
気違いに刃物……69
気で気を病む……69
木で鼻をくくる……69
木に竹をつぐ……70
木に縁って魚を求む……70
杵で頭を剃る……70
気は心……70
驥尾に付す……70
木仏金仏石仏……71
杞憂（小III(2)(2)(2)中II(2)(2)(2)）……71
九牛の一毛……71
九死に一生を得る……71
牛耳る……71
九仞の功を一簣に欠く（小II(5)(1)(2)中I(5)(1)(2)）……72
窮鼠かえって猫をかむ……72
窮鳥懐に入れば猟師も殺さず……72
行住坐臥（小I(3)(1)(4)中I(3)(1)(4)）……72
兄弟は他人のはじまり（小IV(6)(6)(3)中III(6)(6)(3)）……73
今日なし得ることは明日まで延ばすな（小I(4)(6)中I(4)(6)）……73
器用貧乏……73
玉石混交……73
漁夫の利……73

清水の舞台から後とび（小II(6)(8)）……73
虚名久しく立たず……74
権花一日の栄……74
琴瑟を鼓するが如し（小IV(10)(13)中III(10)(13)）……74
錦上花を添える……75
禁断の木の実はあまい……75
金時の火事見舞い……75
勤勉は成功の母（小IV(5)(3)中I(5)(3)）……75
金蘭の契り（小IV(7)(9)中III(7)(9)）……75

〔く〕

空中の楼閣（小I(12)(20)中II(12)(20)）……76
空腹は最良のソースなり……76
愚公山を移す（小IV(5)(3)中I(5)(3)）……76
臭い物に蓋（小III(10)(12)中III(10)(12)）……76
腐っても鯛（小II(6)(8)中II(6)(8)）……77
草の根を分けて捜す（小II(5)(1)中I(5)(1)II(1)）……77
愚者の百行より賢者の居眠り……77
薬九層倍……77
薬より養生（小II(11)中I(11)）……78
癖ある馬に能あり……78
口から生まれて口で果てる……78
口たたきの手足らず……78
口と財布はしめるが得（小II(4)(5)中I(4)(5)）……78
口に関所はない……78
口にはいるものなら按摩の笛でも（小I(11)(1)中I(11)(1)）……79
口に蜜あり腹に剣あり……79
くちばしが黄色い……79
口は善悪の門舌は禍の根（小II(8)(17)中II(8)(17)）……79
唇亡び歯寒し……79
口も八丁手も八丁……80
国破れて山河あり……80
苦杯をなめる（小II(5)(1)中I(5)(1)）……80
蜘蛛の子を散すよう……80
雲をつかむ……81
暗闇から牛を引き出す……81
暗闇に鉄砲を放つ……81
苦しい時の神頼み……81
暮れぬ先の提灯……81
君子あやうきに近寄らず……82
君子はその罪を憎んでその人を憎まず（中II(0)(0)）……82

君子は友を以て鏡となす（小II中II(8)(10)）……82
君子は独りを慎しむ（小II中II(8)(10)）……82
君子は豹変す……82
君子は交わり絶つとも悪声を出さず……82
君子は和して同ぜず小人は同じて和せず……82
群盲象を撫ず……83

［け］

鯨飲馬食……83
形影相弔う……83
鶏群の一鶴……83
経験は知識の母（小II中I(5)(10)）……83
鶏口となるも牛後となるな……84
敬して遠ざく……84
芸術は長く人生は短し……84
蛍雪の功を積む（小II中II(5)(10)）……84
兄たり難く弟たり難し……85
芸は身を助く……85
怪我の功名……85
逆鱗にふれる……85
けしつぶの中に家建てよ……86
下衆の後思案……86
下衆の逆恨み……86
下衆も三食上臈も三食（小II中II(7)(7)）……86
下駄も阿弥陀も同じ木のきれ（小II中II(7)(7)）……86
下駄をあずける（小IV中III(7)(26)）……86
血路を開く……86
下馬評……87
家来とならねば家来は使えぬ……87
毛を吹いて疵を求む……87
犬猿の仲……87
懸河の弁……87
涓々の水江河を成す……88
乾坤一擲（小I中II(6)(8)）……88
健全なる精神は健全なる身体に宿る（小I中I(1)(1)）……88

［こ］

鯉の滝のぼり……88
紅一点……89
光陰矢の如し……89
幸運はだれの門も一度はたたく……89
後悔先に立たず（小I中II(3)(24)）……89

孝行のしたい時分に親はなし（小IV(0.6.3)/中III(0.6.3)）……89
膠漆の交わり（小IV(0.7.0)/中III(0.7.0)）……89
好事魔多し……90
後塵を拝す……90
巧遅は拙速に如かず（小I(4)/中I(4)）……90
狡兎死して走狗烹らる……90
功成り名遂げて身退くは天の道なり……90
郷に入っては郷に従う……90
孝は百行の本……91
弘法にも筆の誤り……91
弘法は筆を選ばず……91
高木は風にねたまる……91
高名の中に不覚あり（小II(8.0.1)/中II(8.0.1)）……91
こうもりも鳥のうち……92
呉越同舟（小IV(0.8.0)/中III(0.8.0)）……92
氷は水より出でて水よりも寒し……92
故郷に錦を飾る……92
黒白を弁ぜず……93
極楽の入口で念仏を売る……93
虎穴に入らずんば虎しを得ず（小II(6.1.8)/中II(6.1.8)）……93
虎口をのがれて竜穴に入る……93
心内にあれば色外にあらわる……93
心ここにあらざれば視れども見えず（小II(5.0.2)/中I(5.0.2)）……94
志あるところ道あり（小III(3.3.2.1)/中III(3.3.2.1)）……94
志ある者は事遂に成る（小II(5.0.2)/中I(5.0.2)）……94
心の鬼が身を責める……94
心の駒に手綱ゆるすな……94
心の矢は石にも立つ（小III(5.0.2)/中III(5.0.2)）……94
乞食も三日すれば忘れられぬ……94
虎視眈眈……94
五十歩百歩……95
五車の書……95
五重の塔も下から組む……95
小食は長命のしるし（小I(1.1.1)/中I(1.1.1)）……95
故事来歴曰因縁……95
胡蝶の夢……96
事が起こる前に影がさす……96
琴柱に膠す……96
言葉は国の手形……96
子どものけんかに親が出る……97

子どもは風の子……97
子にすぎたる宝なし……97
子の心親知らず（小IV 中III 19(33)）……97
子は三界の首かせ……97
胡馬北風に依る……98
五風十雨……98
小舟の宵ごしらえ……98
ごまめの歯ぎしり……98
子故の闇に迷う（小IV 中III 19(33)）……98
殺す神あれば助ける神あり（小IV 中III 37(28)）……99
ころがる石は苔むさず……99
ころばぬ先の杖（小I 中I 4(16)）……99
ころんでもただは起きない……99
こわいもの見たさ……99
子を持って知る親の恩（小IV 中III 19(33)）……100
今度と化物には行きあわない……100
こんにゃくで石垣を築く（小III 中II 12(20)）……100
権兵衛が種蒔く……100
紺屋のあさって……100
紺屋の白袴……101
紺屋の地獄……101
袞竜の袖に隠れる……101
金輪際の玉も拾えば尽きる（小II 中I 5(12)）……101

［さ］

塞翁が馬……102
歳月人を待たず……102
賽は投げられたり（小II 中II 6(8)）……102
竿の先で星をうつ……103
酒屋へ三里豆腐屋へ二里……103
先だつものは金（小II 中I 4(5)）……103
先の雁が後になる……103
先んずれば人を制す……103
昨日の少年今日の白頭……103
桜切る馬鹿梅切らぬ馬鹿……104
雑魚の魚まじり……104
囁き千里……104
坐して食らえば山も空し（小IV 中I 5(31)）……104
さじを投げる……105
雑草はびこりやすい……105
薩摩の守……105

鯖を読む……105
鯖に腐さらせんより砥で減らせ（中Ⅳ(5)(10)）……105
猿に烏帽子……105
猿も木から落ちる……106
去る者は追わず来る者は拒まず……106
去る者は日々に疎し……106
戯も昂ずればけんかとなる（小Ⅱ(8)(14)）……106
触らぬ神に祟なし……107
三思して後行う（小Ⅱ(8)(13)）……107
三十六計逃げるに如かず……107
山椒は小粒でもぴりりと辛い（小Ⅱ(6)(7)）……107
山中の賊を破るは易く（小Ⅱ(2)(11)）……107
三度目の正直……108
三人寄れば文殊の知恵……108
三拍子揃う……108

〔し〕

自画自讃……108
歯牙の間に置くに足らず……108
鹿の角を蜂が刺す……108
鹿を逐う者は山を見ず……109
鹿をさして馬と為す（小Ⅲ(10)(20)）……109
敷居が高くなる……109
自業自得（小Ⅲ(10)(20)）……109
地獄の釜の蓋も開く……110
地獄の沙汰も金次第（小Ⅱ(4)(5)）……110
獅子身中の虫……110
事実は小説よりも奇なり……110
死児の齢を数える……111
私淑……111
地震雷火事おやじ……111
静かな流れは水深し……111
沈む瀬あれば浮ぶ瀬あり……111
死せる孔明生ける仲達を走らす……111
児孫のために美田を買わず……112
舌三寸に胸三寸（小Ⅱ(9)(17)）……112
親しき中にも礼儀あり（小Ⅱ(2)(3)）……112
舌の根のかわかぬうち……112
舌は禍のもと（小Ⅱ(2)(3)）……112
七尺去って師の影を踏まず……112
日月明らかならんと欲すれば……113



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo